

第3回 旧新豊町小学校跡地整備基本構想検討懇話会 議事概要

【開催概要】

日時：令和7年11月27日（木） 15:00～16:15
場所：金沢市役所第二本庁舎 2階 2202会議室

【意見交換発言要旨】

＜中田アドバイザー＞

印象として、「学生を中心に」というのが、学生のまち市民交流館との棲み分けの観点で気になる。

ベテランの公民館主事の話を聞くと、学生は毎年人が変わることもあり、お手伝いしてもらうにはよいが、主体的に何かやってもらうには適さないと聞く。私自身、学生のまち市民交流館で学生の事業をサポートしている中で、先生がついていれば安心できるが、学生団体だけでとなると不安がある。

不登校対策の観点で、不登校の理由を調べると、まず「学校が楽しくない」という意見がある。そういう子でも、イベントがあれば参加するが、コロナ禍を経てPTA等の各種団体の活動が弱まり、イベント開催にも苦労していると聞く。

その上で、コンセプトに「多様な人々」とあるが、人生100年時代と言われる中で、シニア・ミドル世代の活躍の場所を是非作っていただきたい。こうした中で、隣に新豊町公民館もあるので、他の公民館のモデルとなるような、市民団体と公民館事業の連携事業などが行われ、そこに学生も入ってもらうことができればよいと思う。

＜片桐委員＞

幅広い世代、多様な人々とあるが、いろいろできることが、逆に何もできない、誰が来たらいいのかわからない、となりかねない。公共施設として皆が使えるということは重要だと思うが、コンセプトを明確にすることも重要である。

また、これだけのプログラムや多様な機能が展開されるのであれば、中心となって企画運営できる人材や組織体制が必要であり、ボランティアではできない。市民活動サポートセンターなどに運営が丸投げにならないよう、しっかりと検討すべきである。

＜丸谷座長＞

基本構想（案）ではいくつかポイントはあるものの、まだ玉虫色な状態であり、これを今後どう形にしていくか、何を中心にしていくかというところの検討が必要である。

＜鶴見委員＞

整備の方向性の役割について、「学生を中心に」という言葉を除けば、これまで公民館や社会福祉協議会、少年連盟など地域の各種団体が担ってきたものと近しい。そうした意味で、それらの事務局機能をこの施設の中に入れていただきたい。

また、PTAの話が出たが、最近ではPTAの形が変わりつつあり、子どもたちと地域を結ぶ役割が弱まってきていると感じる。地域力を考える上で、学生だけでなく、小中学生を結び付けることも必要であり、コーディネーター機能にはそういう視点で見られる人材やチームづくりが必要である。

<事務局>

ここまでのご意見で少し補足させていただく。

まず学生のまち市民交流館との棲み分けについて、学生のまち市民交流館は、条例上も、学生が様々な活動や交流を通じてまちとの関係を深める場となっている。一方、この施設では、大学との関係を深め、その知見を生かしながら、地域や市民活動団体と連携することによって地域課題の解決を図っていきたい。それがこの施設の一番重要な役割、機能であると考えており、それを施設の核となる機能である教育・実践機能と位置づけている。

また、交流機能の部分で「学生を中心となり」と記載しているが、大学がこの施設をまちなかの拠点として使っていただくことで、当然学生がたくさんこの施設に来ると想定している。その中で、主体的な役割まで学生が担うことは難しいかもしれないが、例えば子どもの居場所づくりの中でメンター的な役割をしてもらうことなど、交流を促進する中での中心的な役割として活動していただきたいと考えている。

コーディネーターに関するご意見もいただいたが、事務局としても多様な主体をつなげる機能がこの施設の肝であり、大学側の事情や地域の事情にも精通した人材をいかに確保し、あるいは育成するかということが重要であると考えている。

公民館の入居については、基本構想で明記はしないが、多様な主体がつながる上で、地域住民の窓口として重要な存在であると考えている。

<仁志出委員>

学生の位置づけの議論があるが、そもそも学生を集められるかという点も重要である。これまでの議論を踏まえると、ポイントとして2点あると思う。

まずは、大学との連携がどれだけできるのかという点。例えばこの場所を活用したい先生が30人くらいいるのであれば非常に面白い施設になりそうだが、たまに授業で使う程度であれば、地域との交流や地域課題の解決にはつながらないと思う。ここで何をやるのかを明確にした上で、各大学や先生とコミュニケーションをとっていく必要がある。

もう1点は、学生寮という案。金沢が好きな人は多いが、卒業してまた金沢に貢献す

るという循環は弱いと感じる。寮機能があり、100人200人の学生がここに住んでいれば、必然的に活動や地域とのつながりも生まれ、循環が生まれると思う。ただし導入には地域の理解が必要である。

＜橋委員＞

学校と地域との距離を近づけるという点では、中学校の部活動の地域移行を進めようという中で、地域のその活動を支援するような機能もあってもいいのではないかと思う。

また、大学にいかにこの施設を使ってもらうかという点で、例えばこの施設の中で行う研究には研究費の助成を行うなどがあれば、連携を推進していくことができるのではないか。

＜山本委員＞

学生はやはり4年で変わってしまうので、卒業後も金沢に住みたいと思ってもらえるシステムづくりが大切かと思う。地域課題の解決ということで、学生が地域に深く入っていくことができれば新しいまちづくりの考え方の一つになると思う。

また、大学、専門学校に加えて高校生も加えられればと思うが、受け入れるには地元の方の理解が必要である。寮に関しても、まちなかで楽しい学生時代を送り、金沢に残ってもらうというのは魅力的だが、同様に地域の理解が必要になる。

＜甚田委員＞

この地区は空き家が多く、それを活用したシェアハウスなどで学生をまちなかに呼び込む仕組みが必要であり、現在、市では建築指導課が空き家対策を行っているが、もっと大きなプラットフォームで進める必要がある。地域で空き家の管理をするのは非常に大変であり、また、簡易宿泊所の問題もある。その防止の観点でも、学生と空き家をどうコネクトするかということを検討していただきたい。

＜丸谷座長＞

いかに学生がいる場を作れるかは非常に重要であり、次年度以降、基本計画の検討における大事な課題として認識しておきたい。

＜中田アドバイザー＞

学生のまち市民交流館との棲み分けに関して、コンセプトの違いがあることは理解したが、一般の人にはピンとこないかもしれない。市として、一度各施設の役割を整理し直す必要もあるのではないか。各大学がどこまで本気で活用してくれるかが重要であり、産学連携のインキュベーション施設であれば積極的に連携できると思うが、いろ

いろんな機能を加えすぎると何の施設なのかわかりにくくなる。シニア・ミドル世代の活躍の場という視点を入れるのがよいと思う。

＜丸谷座長＞

大学教授の立場で発言すると、拠点をつくったので何かしてほしい、と言われても難しいものがある。今回、施設整備の方針が決まった段階で、各大学や教授とのつながりを作り、少しづつ動いていく必要がある。

＜片桐委員＞

大学によって状況も異なるとは思うが、先生も学業以外の仕事が増えており、リソースが限られてくるのではないかと思う。それも踏まえてこの施設を回していく方法や体制を総合的に考えていく必要がある。

周辺の賑わいという点で、シェアハウスという意見は学生が住むという視点でとてもよいと思う。まちをつくっていくというくらいの考え方で取り組むことで、この場所に人が集まり地域の課題解決に向けた動きが起こってくると思う。

＜事務局＞

大学にいかにこの施設を使ってもらうかという点について、当然、施設を作っただけで使ってくださいというのは難しいと考えている。施設ができるまでの間に、場合によっては、先ほど意見にあったようにインセンティブのようなものを考える必要もあるかもしれない。

また、学生が住むという視点が非常に重要であるということも、今後検討していく必要があると考えている。市として、やはり学生がまちなかに来てほしいという長年の課題があり、歴史や文化、繁華街の賑わいなど郊外にはない魅力を味わってほしいという思いがある。

それらを含めて、ソフトの施策も考えていきたい。

＜甚田委員＞

防災機能について、地元としてはもともと拠点避難所機能を確保してほしいという要望だったが、この会議での意見を聞いていると、大学やNPOなど防災に関する知見やノウハウを持った団体と、地域や学生がつながり、防災訓練や教育をしていくということも考えられる。

＜橋委員＞

学生と防災というのは相性がいいと思う。他県の方に聞くと、石川県の人は防災意識が低いという。子どものころから防災教育に力を入れることは重要である。

<鶴見委員>

私自身、防災士として小学校で講習など行っているが、子どもの方が吸収がいいと感じる。大人はどうしても正常性バイアスがかかり、私は大丈夫、と思ってしまう。この施設が拠点避難所となる中で、避難所運営や防災について考える活動というのも一つのキーワードになると思う。

<事務局>

能登半島地震を経て、市民の防災意識が高まったことは間違いない。そうした中で、防災に関する団体がこの場所で防災教育をすることも、活動の一つとしてよいと思う。

学生は4年で変わってしまうという意見もあるが、変わることがいいことであるという見方もできると思う。先ほどからご意見のある大学のニーズ、学生や先生方のニーズをどうつなげていくかというのが、運営の中で一番肝になってくると考えているが、その中で何か新しいものが生まれることもあると考えており、また運営する中で変わっていくこともあると思う。そうした意味で、構想の段階ではあまり範囲を狭めすぎないよう、この（案）のような形にさせていただいている。

<丸谷座長>

基本構想（案）について、本日の議論を踏まえて完成させたいが、構想（案）の内容について意見はないか。

<片桐委員>

今後の具体的な検討における課題のところで、今日の会議で出た意見も含め、より具体的に記載し、この懇話会の意見を次年度以降の検討にしっかりと継承してほしい。運営面の課題について、まずはコンセプトを考えるべきだと思うので、記載の順序やカテゴライズなど整理して記載したほうが今後の議論につながりやすいと思う。

<橋委員>

ハードの例に駐車場に関する記載は必要ないか。

<事務局>

まちなかの施設であり公共交通を利用してほしい部分もあるが、夜の時間帯なども想定される。大きな施設となるため、基本構想には記載しないが、駐車場は当然整備することになると考えている。

<片桐委員>

移動方法については、バスなども含めた全体の移動ネットワークや歩けるまちづくりの観点も踏まえた検討が必要である。

＜丸谷座長＞

第3章が主なところになるかと思うが、今回の議論を踏まえて修正していきたい。来年の1月に市長に報告したいと考えており、時間も限られるため、修正については座長の私が責任を持ってやりたいと思っているが、一任という形でよろしいか。

＜各委員＞

お願いします。

＜丸谷座長＞

ありがとうございます。

以上